

「『一見』以上の」

県立神戸高等学校長
新谷 浩一

○ 英国研修からオックスブリッジサマーキャンプへ

7月12日から22日までの日程で星野先生と首藤先生に引率していただいた英国研修。その準備の一環として出発前に「しおり」への原稿依頼をしていただいた私は参加生徒に期待を込め、こんなことを書きました。

本校にとって英国研修の歴史は古く、2003年の語学研修から始まったとされています。中断した年はあったものの脈々と引き継がれ、今年は18回目の訪問。英国研修の目的は異文化を理解することやコミュニケーション能力を向上させること、本物のイギリス英語に触れることです。また、英国には「伝統を受け継ぐ」という精神があるため、古くからの景観が至る所に残されています。街を五感で味わってくれと嬉しいですね。

街はどんな色ですか。太陽を浴び、木々はどのように輝いていますか。
街はどんな匂いですか。空気はどのような肌触りですか。
街はどんな音で溢れていますか。鳥はどのような鳴き声を聴かせてくれますか。

感じ取れるものが多ければ多いほど、素敵な研修になります。
なぜなら、それは皆さん1人ひとりだけが手に入れる宝物になるからです。

『百聞は一見に如かず』。英国を『見つめる』ことで、『一見』以上の学びがもたらされること期待します。



研修後にまとめられた冊子を見せてもらいました。そこには参加生徒が躍動する様が満ち満ちています。
『3日目、ロチェスターグラマースクールでのランチの時間。神高生たちは、すれ違う生徒に積極的に自分分から挨拶し、周りの生徒と笑顔で談笑していました。日本にいる時よりもおしゃべりになってる生徒も!!!』

『6日目、ハウス対抗スポーツデイ。校庭には大音量のポップな音楽が響きわたり、ハウスごとの応援が続く中、生徒たちはリズムに乗ってそこかしこで踊っています。皆、ハウスの色にペイントしてもらったようで、会うたびに顔や手、脚、首にペイントが増えていき、お祭りモードで音楽に合わせてダンス!! 大合唱!!!』

また、この学校は女子校。ということで学校訪問最終日の7日目にはこのようなお言葉もありました。
『神高生はまるで人気スターのようにどこでも引っ張りだこ。特に男子。もちろん、それは積極的な姿勢と誠実なふるまいの賜物。RGSの生徒たちからは「日本に行きたい!」「大きくなったら絶対に行く!」という声もたくさん聞かれ、交流の輪の広がりを実感。刺激に満ちた毎日は、きっと一生心に残るでしょう』

8日目からはロンドン観光。大英博物館やバッキンガム宮殿、オックスフォード大学などを訪問したとのこと。たくさん本物を見ましたね。帰国した11日目、多くの保護者の方、2学年主任、副主任の財田先生、井上先生とともに私は空港にお出迎えに行きましたが、参加生徒の自信あふれる顔が印象的でした。

このよい流れを継いだのが先々週のオックスフォード、ケンブリッジの大学生とのサマーキャンプ。参加を希望した13名の生徒が4人の大学生と英語三昧で交流を行いました。以下は星野先生のお言葉から。

『たくさん考え、自分の意見を述べる機会を持ってもらうための3日間。内容は盛り沢山で、AIや気候変動から哲学・倫理学まで幅広いテーマについて楽しくディスカッションしました。参加生徒が自分の意見を英語で話そうとする積極的な姿が見られました。また、国際的に評価の高い大学で勉強する大学生の思考のプロセスや考え方に触れることで視野を広げる経験となりました。「大学生活では1日12時間、夜まで大学図書館で勉強する」というチューターたちの話にも大いに刺激を受けていました』。

じかに触れてみたからこそ見える景色はあります。一連の国際交流事業に参加した皆さん、『一見』以上の景色、見ちゃいましたか。

